

旧岡田小学校女化分校校舎

牛久市女化391-1

永正6年（1509）に地元の人が、京都にある伏見稻荷大社に詣で、女化の地に稲荷信仰を伝えたことにルーツをもつ女化稲荷神社の北、約500メートルに女化区民会館があります。その西側に立つ木造の建造物が「旧岡田小学校女化分校校舎」です。



明治25年（1892）に、徳島県から女化原に移住した杉本民蔵らが、この地に「私立化成学館」を発足させたのが、女化分校の始まりです。しかし、キリスト教会も兼用していたため、反対者も多く、翌明治26年には閉館となってしまいました。しかし、女化原開拓の移住者たちは、学校設立の思いを強くもち、明治31年（1898）に「女化開拓の移住者による移住者の子弟のための教育」を実現させるために化成学館の隣の民家を買って、4学年1学級の「私立女化尋常小学校」を開校させました。そして、明治40年（1907）には、村に移管され「岡田村立女化尋常小学校」となりました。その後、「岡田村立岡田第四尋常小学校」と名称を改め、昭和12年（1937）には、村内の小学校の統廃合の結果、「岡田村立岡田尋常小学校女化分教場」となり、昭和14年（1939）には、藁葺きの校舎は建て直され、現存している校舎が完成しました。

校舎は校地の中央北寄りに南側を向いて建っています。木造平屋建て、切妻造りで、外壁は下見板張り、正面東寄りに切妻屋根の玄関があります。片廊下式で北側を廊下として、南側を大教室や中教室に仕切っています。大教室は内部を二分でき、授業形態や多目的利用に対応できるようになっています。建築面積は388㎡、牛久市内では、現存する唯一の戦前の校舎です。学校そのものは、昭和47年（1972）に本校の岡田小学校に統合され、閉校しました。

現在では、牛久市女化青年研修所として広く活用され、平成30年（2018）5月に国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。

茨城教育 第八七三号

令和五年十月二十日発行

編集責任者 鹿志村 則男

発行人 鹿志村 則男

発行所 一瞥閣 茨城県教育会

水戸市見和一 一三五六一二

電話 〇二九一三一 二七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所